

# 美郷町第2次長期総合計画

## 美郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略

令和4年度実績  
(まとめ版)

みさと  
とと。

MISATO TOWN  
SHIMANE

## 1. はじめに

- ・令和2年度に策定した「美郷町第2次長期総合計画」（以下「長期総合計画」という。）の後期計画が令和3年度より始まりしました。
- ・あわせて、令和2年度に策定した「第2期 美郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「総合戦略」という。）も2年目となり、長期的な目標達成に向け、実績の評価を行い、今後に向けての方針をとりまとめました。

## 2. 評価の方法

- ・長期総合計画の後期計画（令和4年度）の単位施策（主な取り組み）は、昨年度の項目から2項目削除し、222項目を掲げています。
- ・この222項目の施策について、各所管課の目線で「実績値」「具体的な取組内容」「目標についての状況（達成または未達成となった理由）」「定性評価・実態（副産物的なもの）」「課題点と改善点」「目標への進捗状況」「今後の方向性」の7点について評価を実施しました。
- ・それぞれの施策の進捗度が分かり易いよう、単位施策の令和4年度末時点の目標に対する結果について「大きく上回った」「おおむね順調」「下回った」の3つの評価に分類しました。これについては、「大きく上回った」「おおむね順調」と評価したものを「目標に対して良い方向に向かった」という状態として集計し、政策分野ごとの『目標達成状況』の目安として示しています。

※目標によっては、単年度での達成を目標とした項目、5年後の達成を目標とした項目がありますが、いずれも令和4年度末での状況で目標に向かってどのくらい進むことが出来たかで判断しています。

※評価については、実績値と目標値の単純な数値比較だけではなく、「数値では表せない実績や実態」も加味した上で判断しています。

※表中の評価欄の矢印は大きく上回ったを「↗」、おおむね順調を「→」、下回ったを「↘」として表示しています。

- ・これらの評価を踏まえ、重点施策（総合戦略関連施策）の状況について、まとめています。

## 3. 令和4年度事業実績の公表について

- ・全222項目についての状況をまとめた「全体状況まとめ表」を公表するほか、長期総合計画の中で「重点施策」と位置付け、総合戦略関連施策を実施した結果をまとめた「令和4年度実績一覧表（まとめ版）」も公表します。

- ・評価の結果については、長期総合計画審議会を経て美郷町議会に報告し、広報や美郷町ホームページで広く町民に公表します。

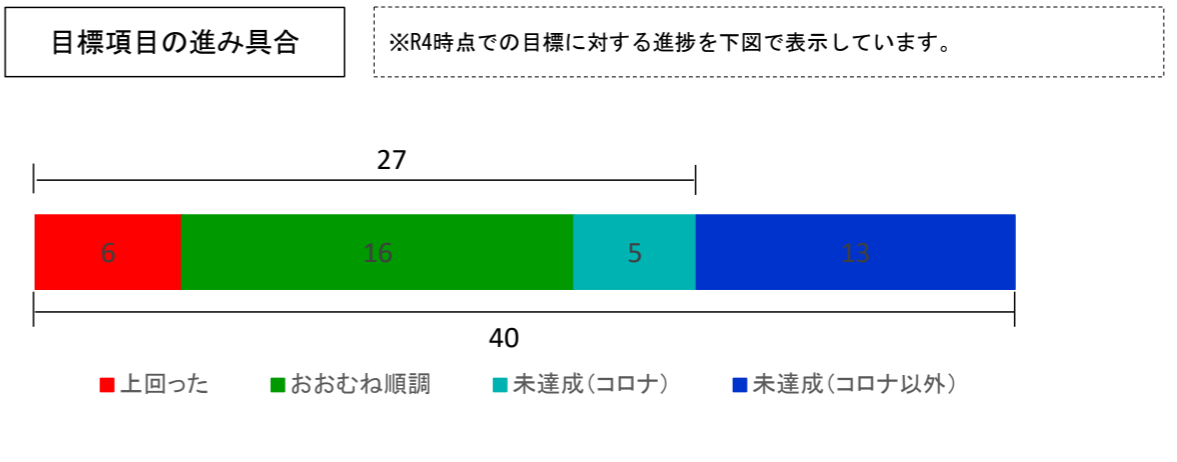
## 全体の進み具合のまとめ

政策分野（基本的方向）	長期総合計画全体	重点施策 （総合戦略関連施策）
I 生活基盤「利便性の高い快適な暮らしを実感できるまち」	85%	100%
II 産業・雇用「人と地域の個性を活かした産業を創出するまち」	59%	33%
III 教育「美郷町を担う心豊かな人づくり」	71%	75%
IV 健康・福祉「生涯を通じて健康で安心できるまち」	61%	33%
V 住民自治「連帯の絆で支え合うコミュニティのまち」	57%	38%
VI 未来創造「美郷町の活力ある未来を創っていくための戦略」	65%	60%
合 計	67% (149/222施策)	55% (22/40施策)
<p><b>【コメント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期総合計画全体では、前年度の目標達成率67%（151／224施策）に対し、今年度も67%（149／222施策）、コロナ禍による制限や自粛の影響を受けた施策を除いた目標達成率は、前年度の82%（151／185施策）から76%（149／195施策）と、6ポイント下がる結果となり、各施策の課題点を踏まえた改善策を進めていく必要があります。</li> <li>・重点施策についても、前年度の目標達成率が58%（23／40）に対し、今年度は55%（22／40施策）、コロナ禍による制限や自粛の影響を受けた施策を除いた目標達成率は、前年度の79%（23／29施策）から63%（22／35施策）と、16ポイント下がる結果であり、こちらも課題点を踏まえた改善策を進めていく必要があります。</li> <li>・重点施策については、個別の項目について次頁でその状況を取りまとめています。</li> </ul>		
<p><b>【審議会のコメント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画の進捗状況について、6つの政策分野毎に内容の審議を行い、政策分野VI未来創造の1施策について町の評価を下方修正したうえで、第2次長期総合計画後期計画の令和4年度実績の全体評価を適当と判断する。</li> <li>・審議会での審議委員意見や課題点と改善策に基づき、より効果的な事業の検討をされ、併せて分かりやすい指標の設定、見直しを行われたい。</li> </ul>		

令和4年度 美郷町第2次長期総合計画 重点施策(総合戦略関連施策)の進捗状況 【後期計画2年目、第二期総合戦略2年目】

達成具合 (参考、下段はコロナ除く) 55% (22 / 40施策) ※達成具合は重点施策(全40施策)のうち、「R4評価」の「↑」と「→」の数の割合から算出しています。  
 63% (22 / 35施策) ※コロナ除く評価は、コロナの影響により未達成となった項目を分母分子より除いた参考数値。

全体概要  
 ・「I 生活基盤」は、全ての施策において目標を達成した。  
 ・「II 産業・雇用」は、集落営農法人化数や薬用作物栽培面積、みさととPay利用金額の目標未達に加え、コロナ禍による観光低迷により目標達成は3割程度となり、今後の事業展開の再検討の必要がある。  
 ・「III 教育」は、コロナ要因以外は全て目標を達成しており、コロナ5類移行により目標達成に向かう予定。  
 ・「IV 健康・福祉」は、2施策が現状維持のため目標未達となったが、次年度以降目標達成に向かう予定。  
 ・「V 住民自治」は、前年度、移動制限などコロナの影響を受けたが、各施策の実績は改善傾向にあり、目標達成に向けた取り組みを進めていく必要がある。  
 ・「VI 未来創造」は、コロナ要因が4施策から1施策に減少したものの、目標達成は昨年度と同じ6割程度に留まっており、目標達成に向けた取り組みを進めていく必要がある。



政策分野	単位施策	目標項目	指標の種類	担当課	R4目標値	目標の種類	R7目標値	目標の積算	目標値変更(R3から)	R3実績	R4実績	R3評価	R4評価	今後の方向性	成果と今後の取り組みなど
I 生活基盤 「利便性の高い快適な暮らしを実感できるまち」	I-1-①	道路網の構築	375号、川本波多線の改良済延長	成果	建設課	40.2km	成果	40.2km	5年後(累計)	39.7km	39.7km	→	→	継続	計画に基づき改良工事を行い、下記のとおりおおむね目標を達成した。 実延長 改良延長 国道375号 29,474m 27,100m 川本波多 14,174m 12,664m 計 43,648m 39,764m  国道375号、県道川本波多線は令和2年に島根県から骨格幹線道路に指定され、重点的な改良事業が行われる予定。ただし、町内の国道及び県道の改良事業は、主に町内の土木業者によって施工しており、災害や人員不足によって事業進捗が遅れる懸念がある。
	I-1-③	生活基盤の整備	町道改良率	参考	建設課	58.8%	参考	60.1%	5年後	58.9%	59.7%	→	→	継続	計画に基づき改良工事と県道移管により、下記のとおり目標を達成した。 奥山線改良工事 L=176m ニタ合線改良工事 L=626m 都賀行宮内線改良工事 L=85m 県道移管により町道都賀西宮内線の増 L=6,176m
	I-1-④	公共交通の利便性の向上と効率化	公共交通不便地域人口	成果	企画推進課	-	成果	0人	5年後(累計)	-	-	→	→	継続	自宅から最寄りのバス停までの距離が400m以上となる公共交通空白地を対象に、らくらくバス(月数日の路線バス運行)、デマンド型乗合タクシー(曜日別ルート固定の予約型乗合タクシー)、タクシー利用助成を実施し、公共交通空白地域を解消している。  R4年度も新型コロナウイルスワクチン接種の円滑化を図るため、町指定医療機関での接種について、タクシー利用助成の利用範囲拡大対応を行った。
	I-2-④	住宅の整備	建設・建替戸数	実施	建設課	1戸	実施	15戸	5年後(累計)	0戸	1戸	→	→	継続	山手ニュータウン8号建設。  R5はみさとと。サステナブルハウスを6棟建設予定。2回に分けて募集を行い、3棟ずつ入居者を決定する。
	I-3-①	情報発信コンテンツの充実化	公式HP閲覧数	成果	情報・未来技術戦略課	720,000PV	成果	900,000PV	5年後(累計)	971,458PV	1,130,308PV	↑	↑	継続	常に最新の情報を掲載し、ホームページを見れば必要な情報が得られるように努めている。 その時の町の主要施策に応じて、ホームページの構成を変更し、情報を必要としている人がアクセスしやすい仕組みになるよう努めている。
	I-5-②	各種災害対策と防災意識の高揚	自主防災組織(連合自治会)での地区防災計画策定数	成果	総務課	5地域	成果	全地域(13地域)	5年後(累計)		2地域	3地域	→	→	継続

審議会のコメント ①おおむね順調に進捗しており、計画に沿って施策を進めて欲しい。

政策分野	単位施策	目標項目	指標の種類	担当課	R4目標値	目標種類	R7目標値	目標の積算	目標値変更(R3から)	R3実績	R4実績	R3評価	R4評価	今後の方向性	成果と今後の取り組みなど	
II 産業・雇用「人と地域の個性を活かした産業を創出するまち」	II-1-②	新産業づくりの推進と進出企業支援	町外からの企業参入数	成果	産業振興課	2事業者	成果	5事業者	5年後(累計)		1事業者	1事業者	→	↓	継続	町内に根差した企業参入を行うため、美郷町関連テーマを定めた「みさとと。ビジネスプランコンテスト2022」を実施し、「薬草」がテーマの事業を1件採択したが、辞退の申し出があり、目標を達成できなかった。 来年度以降、テーマの検討や情報発信、応募プランのブラッシュアップの強化を検討する。
	II-1-⑤	雇用の促進と労働力確保の支援	対象事業所における新規雇用就職者数(新規学卒者)	成果	産業振興課	6人	成果	15人	5年後(累計)		1人	4人	↓	→	継続	美郷町雇用促進奨励助成金制度により新卒者の雇用、町外からの移住を条件とした中途採用による雇用を継続した事業所に助成。技能実習生の来日による増はあったものの、依然として新卒者の就業希望自体が少ない傾向にある。 新卒者への情報発信(地元企業の求人情報や定住Pなど支援制度)の充実対応を検討。
	II-2-①	生産体制の構築	集落営農法人化数	成果	産業振興課	7法人	成果	10法人	5年後(累計)		6法人	6法人	→	↓	継続	3集落で話し合いは行われているが、設立には至らなかった。3集落とも令和5年度中には集落営農を設立予定であるが、法人化は難しい状況。 集落営農活性化協議会を開催し、地域計画策定の説明も行いながら、今後の集落営農のあり方について地域と一緒に検討を行う。
	II-2-②	農地の有効利用	三瓶在来そば栽培面積	成果	産業振興課	14.8ha	成果	25ha	5年後(累計)		24.4ha	20.0ha	↑	↑	継続	全域で三瓶在来種を栽培。一部天日干し、送風乾燥で乾燥作業を行い、付加価値をつけて販売。令和3年度に比べると4ha減少しているが、目標値は大幅に達成している。 栽培面積は20haを超えているものの、天候の影響により、収穫面積が15ha程度となっている。播種期の気象状況の確認を行い、適期に播種し、作付けした全てのほ場で刈り取りができるよう研修会等で周知していく。
		農地の有効利用	薬用作物栽培面積	成果	産業振興課	5.6ha	成果	8.6ha	5年後(累計)		3.8ha	3.7ha	↓	↓	継続	新たに栽培に取り組む農業者がいなかったため、昨年並みの面積に留まった。 ・シャクヤク3.2ha、カワラケツメイ0.47ha、ドクダミ0.06ha ・生産者数23名 ・第10回全国薬草シンポジウム開催 参加者数延べ200名 栽培面積の拡大に向け、単年で収益につながるカワラケツメイの栽培を普及していく。引き続きシャクヤクは苗の無償配布を行っていく。
	II-2-③	農業従事者担い手の育成	新規就農者数	成果	産業振興課	13経営体	成果	18経営体	5年後		10経営体	12経営体	↓	→	継続	経営発展支援事業により機械や施設の支援を行った。(新規就農者2名) 新たな担い手確保・育成のための研修受け入れ体制の整備を行い、自営就農者の確保に努める。
	II-3-②	町内消費の誘導	みさととPay利用金額	成果	産業振興課	300,000千円	成果	300,000千円	単年度		22,762千円	85,249千円	↓	↓	継続	「美郷まるごと半額まつり」実施によりカード利用の促進は出来たものの、目標を大きく下回っている。 町外在住者向けのビジーカードの普及や加盟店の新規加入促進を検討する。
	II-4-④	広域観光の推進(ワイナリー・リゾート・タウン構想)	観光動態調査の宿泊者数	成果	産業振興課	13,000人	成果	13,000人	単年度		5,291人	7,122人	↓	↓	継続	月一でのホテルマルシェの開催、雲海予報の発表等により宿泊利用の推進を図ったが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、ワイナリー関連施設の周遊策や魅力の情報発信が十分できなかったため、誘客が伸びず目標を下回った。 雲海予報等の美肌コンテンツを活用したツアー造成推進を検討する。
II-4-⑤	美肌県美肌町の推進	温泉施設への入込客数	成果	産業振興課	25,500人	成果	25,500人	単年度		11,579人	19,603人	↓	↓	継続	雲海予報等を行い、前年比増となったものの、新型コロナウイルス感染症の影響や「美肌県美肌町」の活用度が低く目標を下回った。 美肌コンテンツを増やし、「美肌県美肌町」を浸透させ、温泉施設への誘客を図る。	
審議会のコメント	<p>①みさととPayについて、課題点を踏まえた改善策を進めて欲しい。</p> <p>②美肌県美肌町の推進について、事業者と連携し、美肌を活かした料理を検討して欲しい。</p>															



政策分野	単位施策	目標項目	指標の種類	担当課	R4目標値	目標種類	R7目標値	目標の積算	目標値変更(R3から)	R3実績	R4実績	R3評価	R4評価	今後の方向性	成果と今後の取り組みなど	
Ⅲ 教育「美郷町を担う心豊かな人づくり」	Ⅲ-1-②	情報活用能力の育成	美郷町ICT活用能力育成計画の策定・実施（新規）	実施	教育委員会	実施・見直し	実施	実施・見直し	5年後		策定	実施	→	→	継続	「美郷町ICT教育推進ビジョン」に沿って実施。 年間の実施状況を鑑み、令和5年度については見直し、修正を反映させる。
	Ⅲ-1-①	美郷町への愛着と理解の醸成	将来美郷町に住みたい（帰ってきたい）と答えた生徒の割合（中学校3年生）	成果	教育委員会	50%	成果	80%	単年度	62.0%	64.0%	→	↗	継続	学校教育におけるふるさと教育、キャリア教育の充実を図った。多世代対話活動「みさと一く」を実施することで地域の大人と出会う場面を設定し、自分自身の生き方と地域の未来を考える機会をもった。 令和7年度目標値を達成するため、ふるさと教育や多世代対話活動等とおして、地域に対する理解や貢献意欲を一層育てていく。	
	Ⅲ-2-①	美郷町への愛着と理解の醸成	公民館の「地域課題解決学習」の実施回数	実施	教育委員会	12回	実施	16回	単年度	10回	8回	→	↘	継続	各公民館において、実践者の育成のため、地域課題（防災、つながりづくり、獣害対策等）の解決に向けた事業を計画したが、新型コロナウイルス感染症の影響があり、実施回数は8回に留まった。 参加者の課題に対する意識が向上しているが、地域課題に対する住民の熟識が必要。地域課題解決のプログラム等を活用してその機会を設定していく。	
	Ⅲ-3-②	子どもを中心に据えた地域づくりの推進	放課後子ども教室、放課後児童クラブの活動に地域住民がスタッフとして運営に携わった活動の実施回数	実施	教育委員会	2回	実施	4回	単年度	0回	3回	↘	→	継続	地域事業所からの提案により、各児童クラブにおいて地域事業所のスタッフが講師となり、竹とんぼづくりを開催した。 子ども教室でも地域住民がスタッフとして携わる事業実施を検討していく。	
審議会のコメント	①地域課題解決学習について、住民がその取り組みを認識して参加できるよう実施して欲しい。															
Ⅳ 健康・福祉「生涯を通じて健康で安心できるまち」	Ⅳ-2-①	地域ぐるみの福祉の推進	地域福祉推進会議の設置及び開催	実施	健康福祉課	2回	実施	2回	単年度		未設置	未設置	→	↘	継続	令和4年度末に地域福祉計画が策定され、ネットワーク会議の構築については、令和5年度に進めていく予定。 令和5年度に設置し、開催していく。
	Ⅳ-3-②	地域包括ケアシステムの構築	地域での生活支援を実施している連合自治会数	成果	健康福祉課	5自治会	成果	8自治会	5年後（累計）	4自治会	4自治会	→	↘	継続	町内の4連合自治会は生活支援コーディネーターを設置し、住民主体の生活支援サービスを実施しているが、令和4年度は現状維持であった。 地域の事情や人材確保の面で、すべての連合自治会で生活支援サービスを実施することは難しい。令和5年度から7名の方に委嘱予定。生活支援コーディネーター連絡会を開催し、地域の現状や課題について意見交換を行う。	
	Ⅳ-5-①	子育て支援の充実	育児の相談相手がいる保護者の割合	参考	健康福祉課	95.4%	参考	100.0%	単年度	100.0%	100.0%	→	→	継続	妊娠手帳届出時に子育てに関する相談機関の一覧の配布やオンライン相談を紹介し、育児の相談相手がいる保護者の割合は100%となった。 相談相手は配偶者が最も多く、次いで親、友人となっているため、専門職（保健師、保育士等）への相談を気軽に行うことができるよう、子育て支援センターや乳幼児相談等のPRを行う。	
審議会のコメント	①地域での生活支援を実施する連合自治会について、各地域での活動支援の拡大に向け、取り組みを進めて欲しい。															

政策分野	単位施策	目標項目	指標の種類	担当課	R4目標値	目標種類	R7目標値	目標の積算	目標値変更(R3から)	R3実績	R4実績	R3評価	R4評価	今後の方向性	成果と今後の取り組みなど	
V 住民自治「連帯の絆で支え合うコミュニティのまち」	V-1-②	町民・多様な主体の力を結集した取り組みの推進	小さな拠点づくり計画・協議等実施地域数	成果	美郷暮らし推進課	13地域	成果	13地域	5年後	12地域	13地域	→	→	継続	令和4年度は13地域、全連合自治会がコロナ禍による影響がありながらも、感染症対策や規模の縮小をしながらも工夫を凝らし、地域コミュニティ計画に基づいた活動を行った。この活動に対して「地域力アップ交付金」を交付した。 集落支援員と十分連携を取りながら、地域コミュニティ計画に基づき行う活動を進める。	
	V-2-①	U・Iターンの推進	UIターン施策による受入数	成果	美郷暮らし推進課	30人	成果	50人	単年度		5人	12人	↓	↓	継続	空き家バンク利用による転入は7世帯8人、若者定住住宅は1世帯4人。 空き家相談者は、近隣市町の空き家物件と比較しながら空き家を選択される傾向にあるため、空き家の状態が良い段階で登録できるような取り組みを進めていく。
			空き家バンク登録件数	実施	美郷暮らし推進課	20件	実施	50件	5年後(累計)		6件	15件	↓	↓	継続	固定資産税納入通知書に空き家バンク登録の案内文書を同封しており、16件の登録相談があった。そのうち、新規登録件数は7件、再登録件数は2件であり、目標を下回った。 空き家所有者を対象とした空き家に関するアンケートを実施したところ、56件の物件について空き家バンク登録希望があったため、次年度はそれらの物件登録を進めていく。
	V-2-②	情報発信の充実	移住・定住サイト閲覧数	実施	美郷暮らし推進課	120,000PV	実施	240,000PV	単年度	各目標数値の単位を「件」から「PV」に変更。目標項目を「みさと暮らし応援ネット閲覧数」から「移住・定住サイト閲覧数」に変更	87,572PV	87,225PV	↓	↓	継続	空き家バンク・求人情報の更新が主で、移住希望者の満足度が高いHPとは言えなかった。 探している情報が見つけないとの声があり、HPの改修を予定。移住支援策だけでなく、子育て・教育に関するコンテンツも充実させていく必要がある。
	V-2-③	関係(活動)人口の創出	ふるさと納税寄附件数	成果	美郷暮らし推進課	5,000件	成果	10,000件	5年後(累計)		2,007件	4,583件	↓	→	継続	令和4年度の寄附件数は2,576件。 新規に25品の返礼品を追加し、地域の特色を活かしたイノシシ肉や海士町との共通返礼品など、新たな分野の返礼品開拓に取り組み寄附者のニーズに沿った返礼品を展開することができた。令和4年度単年度でみると2,500件以上の寄附数がありおおむね目標どおりとなった。 人気のある返礼品は安定的に出荷できるよう管理するとともに、米・肉・たい肥に並ぶ人気返礼品を更に開拓し、今後も目標達成を目指す。
			サテライトオフィス県外利用者割合	実施	美郷暮らし推進課	10.0%	実施	30.0%	単年度		50.0%	58.8%	↑	↑	継続	美郷町の施策でつながりのある事業所17社(県内7社、県外10社)の利用があり、目標を上回った。 令和4年度はレンタルオフィスは満室となったが、コワーキングスペース・オープンスペースの利用率を高めていく必要があり、気軽にテレワークのできる環境であることを広報等進めていく。
	V-2-④	定住に向けた支援の充実	移住体験住宅の利用世帯数	実施	美郷暮らし推進課	10世帯	実施	20世帯	単年度		0世帯	3世帯	↓	↓	継続	令和4年度は受け入れを再開したが、新型コロナウイルス感染症による移動制限はなかったものの、利用者は3組にとどまった。 転入後のミスマッチを予防するためにも、引き続き移住体験住宅の活用を推進し、移住相談者への制度周知を行っていく。
	V-2-⑤	出会いの場の創出の推進	出会いの場創出によるマッチング数	実施	美郷暮らし推進課	6組	実施	6組	単年度		0組	4組	↓	↓	継続	マッチングイベントに加え、参加へのハードルが低い仲間づくりのイベントや、婚活に役立つコミュニケーションセミナーなども開催したが、目標には届かなかった。 マッチングを伴うイベントになった時に、敬遠されず参加してもらえるような取り組みを検討。
審議会のコメント	<p>①空き家バンクについて、空き家になって早期に活用できるよう所有者への対応を進めて欲しい。</p> <p>②移住・定住サイトについて、取り組みのPRや情報発信の取り組みを進めて欲しい。</p> <p>③サテライトオフィスについて、冬期も利用しやすいよう防寒対策も検討して欲しい。</p> <p>④出会いの場創出の推進について、人口減少対策の要であり、若い世代の意見を反映しながらしっかりと取り組んで欲しい。</p>															

政策分野	単位施策	目標項目	指標の種類	担当課	R4目標値	目標種類	R7目標値	目標の積算	目標値変更(R3から)	R3実績	R4実績	R3評価	R4評価	今後の方向性	成果と今後の取り組みなど	
VI 未来創造 「美郷町の活力ある未来を創っていくための戦略」	VI-1-①	美郷バレー構想の推進 (山くじらの取組を柱またはきっかけとした産官学民の連携)	美郷バレー・協定締結数	成果	美郷バレー課	9件	成果	10件	5年後(累計)		9件	9件	→	→	継続	新型コロナ禍で町外との交流・往来が十分でない状況下の中で3年ぶりの山くじらフォーラムの開催やNHKスペシャル番組を通じた美郷バレーの取組の紹介など、次年度へ向けた関係人口・活動人口の拡大へつながる活動と情報発信がしっかり周知できた。 令和4年度の成果を素地に新型コロナが感染症法上の分類が5類になり、滞在人口・活動人口が活発化するなど改善が見込まれ、協定のきっかけづくりにつなげていく。
	VI-2-①	経済交流の推進	技能実習生の受入人数	実施	企画推進課 産業振興課	6人	実施	15人	5年後(累計)		0人	5人	↓	→	継続	令和4年7月から4名、令和4年11月から1名の計5名来日。 引き続きバリ島マス村と連携を取りつつ、地元企業とのマッチングを図り、目標の達成に務める。
	VI-2-②	民間交流の促進	SNSのフォロワー数	成果	教育委員会	125人	成果	200人	5年後(累計)	目標の単位表示を「件」から「人」に変更	184人	266人	↑	↑	継続	バリ島の料理動画の配信等、新たな配信を開始。技能実習生の来町やバリ島アート展などの紹介を行い、目標を大きく上回った。 ガムラン関連の関心が高い傾向があり、ガムラン関連の話題を今後も投稿していく。
	VI-2-③	文化交流の促進	バリ文化振興を目的とした演奏会等の開催	実施	教育委員会	2回	実施	年2回	単年度		4回	4回	↑	↑	継続	コロナ禍で中止となった催しもあったが、安来節保存会との共演大会、産業祭、沢谷元氣まつり、単独演奏会を開催した。 地域行事への出演依頼が増えており、ガムラン楽団の組織運営体制の充実化を図っていく。
	VI-3-①	石見神楽、銀山街道、芸術・文化の魅力発信	神楽定期公演、共演大会の参加者数	成果	産業振興課	760人	成果	760人	単年度		0人	0人	↓	↓	継続	定期公演、共演大会の開催を計画したが、コロナ禍により神楽団の活動が実施できず、計画していた定期公演は開催できなかった。 活動ができる神楽団からだけでも徐々に公演に向けた取り組みの検討を行う。
			中原芳煙を題材とした活動の実施学校数	成果	教育委員会	3校	成果	4校(全校)	5年後(累計)		0校	1校	↓	↓	継続	大和小学校3、4年生総合学習の時間に実施。ICTを活用し、作家の生涯と作品を紹介した。校長会等で授業実施の計画を呼びかけたが、実施は1校にとどまった。 授業実施の呼びかけの継続や教職員研修等で取り上げてもらう働きかけを行う。
	VI-4-①	空の駅構想の推進	ドローンによる物流ネットワークの導入	実施	情報・未来技術戦略課	計画準備	実施	導入	5年後		未実施	未実施	↓	↓	継続	令和4年度は、民間企業とのドローン物流に関する検討は実施していない。 目標は「導入」としているが、美郷町でドローンによる物流ネットワーク構築の必要性・可能性について更に検討していく。
	VI-4-②	行政のデジタル化の推進	IP告知端末を使った遠隔診療システムの検討	実施	情報・未来技術戦略課	システム構築	実施	導入	5年後	令和7年度目標を「システム構築」から「導入」に変更	検討中	導入	→	→	継続	令和4年度は、加藤病院・石東病院・君谷診療所にてオンライン診療を延べ10件実施。 利用される患者様は色々な症状をお持ちであり、耳が聞こえにくい、目が見えにくいなどIP告知端末単体では対応しにくいいため、工夫の検討を進める。
IP告知端末を使った買い物支援システム導入の検討			実施	情報・未来技術戦略課	システム構築	実施	導入	5年後	令和7年度目標を「システム構築」から「導入」に変更	検討中	検討中	→	↓	継続	令和4年度は、町内事業者との検討を行っていない。まずは配送の問題があるため、佐川急便、クロネコヤマトや西濃運輸等と協議している。 買い物支援の仕組みは必要だと考えるが、担い手の問題が大きく、目標を達成できるかは不透明。	
VI-4-③	自動運転を使った公共交通の検討	自動運転による公共交通網の検討・導入	実施	企画推進課 情報・未来技術戦略課	検討	実施	導入	5年後		検討中	検討中	→	→	継続	自動運転の技術は日進月歩であり、常に情報収集はしている。 自動運転が、現在の美郷町の公共交通にどこまで活用できるかは、現状分らないため、目標達成は不透明。	
審議会のコメント	<p>①バリ島関連SNSの目標値を上方修正し、取り組みを進めて欲しい。</p> <p>②IP告知端末を使った買い物支援システム導入の検討については、目標値の「システム構築」に対し、実績は「検討中」であり、「未達成」が妥当では。</p>															



## 状況まとめ（総合計画全体としての状況）

### 【生活基盤】

#### ●道路交通網

- ・道路整備事業は計画どおりに進捗しており、目標を達成できた。維持補修工事についても計画どおり実施することができた。
- ・これまでの美郷町地域公共交通会議と美郷町有償運送運営協議会を一本化し、法定の「美郷町地域公共交通協議会」を設立する準備を行った。R5年度当初に協議会を立ち上げ、5年度中の「美郷町地域公共交通計画」策定を目指す。

#### ●生活環境

- ・上下水道施設の整備は概ね目標を達成した。水道事業の有収率（給水に対する料金の回収率、水漏れ等が発生すると下がる指標）は施設の老朽化により低下しているが、現在、比之宮地区簡易水道の改良を進めている。また、令和4年度から水道事業、令和5年度から下水道事業が公営企業会計へ移行したため、経営の効率化と安定的な施設運営を行うことが必要である。
- ・町民の皆さんの最後をおくる火葬場として、保守業者と連携を取りながら計画的に修繕を行い、安全で衛生的な火葬業務が執行できるよう施設管理に務めた。

#### ●情報通信

- ・情報発信の取り組みとしては、特に美郷町公式ホームページとSNSでの発信に力を入れている。特に美郷町公式LINEは、登録者数が2022年4月の3,028人から2023年6月時点で6,328人と、前年度比約210%の増。このコンテンツを生かして、今後も様々な情報発信を行いし、美郷町の認知度アップの取り組みを更に進めていく。
- ・情報セキュリティのインシデントは全く発生していない。マルウェアの状況は日々変化しているため、常に最新の動向を注視しながら、今後もセキュリティ対策を講じていく。

#### ●自然・環境衛生等

- ・ごみの減量化とリサイクル活動の推進については、家庭ごみの分別に関する情報を広報みさと・町ホームページ・IP告知放送で情報発信を行い、住民からの問い合わせ件数は減少してきている。住民意識向上のため、引き続き情報発信を行っていく。
- ・国の交付金を活用し、「ゼロカーボン促進事業補助金」を交付。エネルギー価格の高騰も重なり、町民や事業者の意識や関心が急速に高まり、太陽光発電設備（太陽光パネル及び蓄電池）や高効率空調（エアコン）等で申請が増加した。

#### ●消防・防災・防犯

- ・急傾斜対策、砂防整備は目標達成にむけて関係機関と調整を行っている。治水対策は港地区の防災集団移転について令和6年12月の移転を目指して事業を進めている。
- ・地域防災の取り組みでは、コロナ禍の影響が続いたことで、研修会等の中止や地域での話し合い・学習会控えなど進捗へ影響が生じている。一方、そうした中であっても、少しずつ地域防災計画策定を含めた地域防災の取り組みは進んでおり、古河電工とも連携し取り組みを進める。（地域防災計画策定スミ・策定作業着手が計5地区、防災学習会等5地区、防災士27人に（前年+3人）。また、デジタルハザードマップ（土砂災害・洪水の2災害組み合わせ）のHP公開、ツイッターでの情報発信、災害情報のリアルタイム一元収集、避難所運営の効率化など、地域・町の災害対応力の強化に努めていく。
- ・内水対策では、内水排除ポンプの計画的整備（計18台）に加え国土交通省に要望し電源確保も順次実施したことに加えて、県内水排除ポンプ車を町内に配備。関係機関と連携し、これらを組み合わせた対応を検討するほか、水防団向けの洪水時出動（樋門操作）・ポンプ操作といった研修を実施。

## 【産業・雇用】

### ●起業者支援

・庁内の関連課、商工会・金融機関と連携し、町内在住者、移住者と問わず、幅広く起業ニーズの把握に努め、情報共有体制の構築を図った。起業を計画している個人や団体等への積極的な制度周知を実施し、地域商工業補助金の起業枠を活用し支援を行った。

・町の強みや新技術等を活かした取り組みの進展を図るため、テーマを定めたビジネスコンテスト『みさと。ビジネスプランコンテスト2022』を開催し、『薬草』がテーマの分野で1件採択したが辞退の申し出があった。R5年度は応募プランをブラッシュアップし、「ソーラーシェアリング」、「バリ」「美郷町の特徴」の3つをテーマとした。

### ●農林水産業

・ファームサポート美郷や農事組合法人、集落営農組織による耕作放棄地対策は、三瓶在来種ソバや玉ネギの作付けはあるものの、面積拡大には至らなかったが、薬草に関しては「全国薬草シンポジウム」を美郷町で開催し、延べ200名弱の来場があった。引き続き薬草栽培の普及に向けた取り組みを進めるとともに、新たな担い手を確保し耕作放棄地の解消を推進する。

・リースハウス事業については、専門の栽培指導員の配置により、農業者の栽培技術の向上や品質向上につながり収益アップにつながった。また、認定新規就農者についても2名が就農を始めた。

・林業推進協議会を通じた林業事業体及び林業従事者、森林所有者のニーズを森林環境譲与税を活用しながら森林整備や林業従事者の雇用の場の確保につなげた。特に林業労働者の労働力の負担軽減等による労働環境の改善、林業省力化を目指した大型ドローンの活用を現場実証試験し実用化に大きく前進した。

### ●商工業

・美郷町雇用促進奨励助成金制度により、町内事業所における人手不足の解消と新規就労や町外からの移住も含めた労働力の確保は一定の効果があった。労働者の町外流出を避けるため、また、外部人材の取り込みに積極的な事業者に対する支援の拡充が必要である。

・みさと。Payを用いた町内の消費キャンペーンとして「美郷丸ごと半額まつり」を開催し、町民のキャッシュレス化に対する認知度は大幅に上がった。目標値達成に向け引き続き、電子マネーの利用度アップと、消費拡大を目的とした効果的な取組を事業主体である商工会と連携を密にして実施する。

### ●観光

・温泉及び宿泊施設について、雲海や雲海予報、「美肌県美肌町」をキャッチフレーズとした、美容と温泉コンテンツの充実に取り組んだが、観光宿泊関連は新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続き、R3実績よりは回復基調にあるものの目標を下回った。感染症5類移行後は観光産業も活性化しており、今後「美肌県美肌町」の浸透を図り、積極的な情報発信や体験プログラム等の充実を図り滞在型観光を展開し観光客の増につなげる。

・神楽について、定期公演、共演大会の開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大、また感染防止対策の影響もある中、本格的な神楽団の活動が実施できず、計画していた定期公演は開催できなかった。

## 【教育】

### ●社会を生き抜く力の育成

・授業での活用に加えて各校で家庭学習におけるタブレット活用に取り組み学習支援館での利用も進んだが、児童生徒の家庭学習の時間は伸び悩んでいる。メディア接触時間の増加等コロナ渦の影響も考慮しつつ、児童生徒の生活リズムの改善と学習課題の工夫に取り組んでいく必要がある。また、家庭学習の習慣を定着させるために、保育園とも連携した家庭への働きかけを行っていきたい。

・すこやかな心の育成を目指し、学校、SC、SSW、福祉部局などが連携して、不登校等問題を抱える児童生徒に対応した。積極的に連携を図ることで、児童生徒の状況をより正確に把握し、効果的なアプローチを行うことができた。今後はより早期から連携して対応することができるように努めていく。

### ●未来を担う人材の育成

・コロナ禍で活動が制限される中ではあったが、活動を工夫しながら「ふるさと教育」や「キャリア教育」として、地域のひと・もの・こととの出会いや交流を行った。小学校から中学校まで9年間を通じた教育活動の継続によって、地域行事への参加や地域貢献への意欲が高い児童生徒の割合が高くなっている。

・人権作品展や人権コンサートを開催し、町民の人権意識の高揚と人権の尊重された社会の実現と自分自身の課題として人権尊重の理念についての理解を深められるように努めた。隣保館などと連携して中学校の同和学習を支援し、実生活に即した人権感覚を養い実際の行為に結びつける実践力や行動力の育成に努めた。引き続き、様々な年代に向けた人権啓発の取組を進めていく。

### ●学校、家庭、地域の連携・協働による教育環境の充実

・令和5年度からのコミュニティ・スクール移行に向けて、先進自治体の視察、教職員や学校運営協議会委員の研修を実施した。今後は各校区のニーズに応じた学校運営協議会の運営ができるように、地域・学校と連携して取り組んでいく。

・地域未来塾の活動として、異文化コミュニケーション体験を企画・実施をした。5カ国の青年とそれぞれオンラインでつながり、異文化の話を聞いたり、質問したりして交流した。地域住民の主体的な参画を得て事業を始めることができた。

## 【健康・福祉】

### ●保健・医療

・新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、特定健診の受診率は低かったが各種がん検診の受診率はコロナ前の受診率に戻りつつある。介護予防教室の大部分を委託事業とし、保健師による出前講座は要望のあった地域の活動団体や公民館、事業所に偏りが生じているため、今後はより多くの住民に「食・運動・心・お口」の健康について伝えていく場を地域の実情に応じながら増やしていきたい。育児相談はオンライン相談を中心に実施しており、登録者は徐々に増え目標値を達成している。また、新型コロナの影響もあり、運動・食習慣(特に嗜好食品)のなどに多くの課題があり、肥満や糖尿病リスクが増加している。今後も地域、職域に働きかけて事業を実施していく予定である。

### ●社会福祉

・R3年度から引き続き健康福祉課を総合相談窓口と位置づけ、地区担当の保健師を中心に重層支援体制整備事業を実施し、子育て、障がい、高齢者、生活困窮の分野にとらわれず、家族全体を対象として重層的な支援体制を構築し、町内外の関係者・機関と協働して支援を行った。今後、複雑・多様化するケースについて支援会議や、より個別支援に特化した重層的支援会議を開催するなど支援の充実をめざす。

### ●高齢者福祉

・生活支援コーディネーターは、住民のニーズ把握や関係機関へのつなぎ役、サロンの企画や運営、生活支援の実施者として大切な役割を担っている。また生活支援コーディネーターとしては配置されていなくても自治会や老人会がサロンを開催したり、買い物支援を行っている地域もある。各種介護予防教室や地域のサロンなどの通いの場へのべ参加者数は多く、介護予防に効果がある。今後も地域での介護予防、生活支援体制の構築に取り組む。

### ●障がい者(児)福祉

・R5年度からの準備として、地域活動支援センター「あおぞら」での認知症カフェを1回実施した。今後も「あおぞら」を会場にして、高齢者だけでなく、障がい者やその家族、不登校など誰でも参加できるように実施する予定である。

### ●児童福祉

・保育所や学校など関係機関と連携して、発達相談事業を実施し、悩みを抱える保護者や支援の必要な家庭に対して支援を行った。問題も多種多様になってきており、個別の訪問を行い、普段からコミュニケーションを図り、関係機関と連携しながら、きめ細やかな子育て支援を今後も展開していく。

### ●母子・父子世帯福祉

・コロナ禍で経済的に困窮しているひとり親世帯や、子どもとのコミュニケーションなど子育てに悩みを持つひとり親が多く、関係機関と常に情報共有しながら、必要なケースには個別相談を実施した。今後も経済的な支援も含めて、学校、保育所など関係機関と連携をとりながら、子育てと仕事の両立などの相談支援体制をさらに確立していく。

### ●生活困窮者福祉

・これまでも、生活困窮者に対しては、美郷町社会福祉協議会と連携し、世帯ごとの自立に向けた支援プランにより、安定した就労を目指す指導・訓練や、支出の削減を図る家計改善相談など、きめ細かな支援を実施するとともに、生活福祉資金貸付制度による、一時的な生計維持のための緊急小口資金や、生活の立て直しのための総合支援資金の貸付けを行っている。引き続き、一人ひとりに丁寧寄り添いながら、経済的に自立できるよう後押ししていく。

### ●人権の尊重

・隣保館、同和対策推進協議会等を中心とした人権啓発に関する研修等を行った。新型コロナウイルス感染症拡大により「差別」に対する関心が高まり、差別を「他人事」ではなく「自分事」として考える人権意識の向上につながった。  
・高齢や障がい等により、講演会や研修会へ参加できない方への啓発が課題であり、公民館や地域と連携して事業を行う必要がある。



## 【住民自治】

### ●地域自治と協働

- ・各連合自治会の集落支援員が地域のアドバイザー・コーディネーターの役割を果たし、如何にして地域自治やコミュニティ機能を維持向上させていくかを模索し、また地域活動においてはコロナ禍で中止せざるを得ない催しもあったが、その中でも感染症対策や開催規模に工夫を凝らし継続して活動を行って来られた。
- ・集落支援員連絡会議を開催し、お互いの情報共有の場、課題解決や新たな地域活性化活動への手がかりの機会を設けた。
- ・「地域力アップ交付金」制度により、地域コミュニティ計画に基づく持続可能なコミュニティづくり等の地域住民活動を支援した。

### ●定住対策

- ・U・Iターンの推進については、移住相談会が対面イベントで少しできるようになったが、そもそもの参加者数が少なく、相談件数増とはならなかった。一方、移住体験住宅の受入を再開し3組7名の利用があり、内1組4名の移住に繋がった。  
定住に関するホームページやSNSによる継続的な情報発信を行う他、移住希望者に無料職業相談所の求人情報の提供を行い、U・Iターン者の増加を図った。
- ・出会いの場の創出に関しては、昨年度に引き続き仲間づくりのイベントや、コミュニケーション講座を行い、若者同士の交流、個々のコミュニケーション力向上を図った。マッチングイベントも2回開催したが、やはり婚活を前面に打ち出したイベントとなると抵抗感があり、参加者が集まりにくい傾向が見られた。
- ・町内での開催や役場が単独で主催するような会は参加者の抵抗感がより強くなるため、今後は近隣市町との合同イベントであったり、専門業者に委託するなどして、広域的かつ行政が見えにくい形でイベントを開催し、参加者数・マッチング数の増加を図る。

### ●効果的・効率的な行政運営

- ・行革計画は策定していないが、次期は、行革≒削減ではなく、DX・ICT活用等による効率的な事務・効果的なサービス、政策優先度を踏まえた持続的運営の2つを主テーマとして検討していく方向。国の方針（DX関連方針）や自治制度の動向、他計画との関連を考慮し、もう少し時間をかけて検討。

### ●財政運営の安定化

- ・予算編成時のヒアリングにおいて事業の必要性和効果に留意し、地方債発行額の抑制を図った。新規事業の財源が全て一般財源となることのないよう、歳入財源の精査（補助金、交付金、交付税措置のある地方債の活用の検討）により、経常収支比率・実質公債費比率等の財政指標の健全性の確保に努めた。当方針に加え、日常的に使用する消耗品や旅費等の経費についても利便性が高くかつ経費を抑えられるものへの移行を推進していきたい。

## 【未来創造】

### ●山くじらブランドの推進

- ・事業推進において新型コロナウイルス第7波の影響がある中で山くじらフォーラムを3年ぶりに3日間開催した。美郷バレー協定企業団体はじめ参加者のべ511人、県外14都県166人の集客があった。久々の開催であったが再来訪者も多く、町内宿泊数はのべ83泊、期間弁当212食、団体食事50食ほか、昼夜の飲食や購買など経済効果も大きかった。
- ・美郷町が調整・仲介役として麻布大学フィールドワークセンターに県内公立高等学校長会（会長 松江北高校・木原校長）12校からの視察研修を実現することができた。新たな島根県教育庁及び高大連携の推進につなげることができた。
- ・麻布大学の教員及び学生の町内フィールドワークについては、新型コロナウイルス第7波・第8波の影響があったものの、過去の同大学生命環境科学部以外の獣医学部動物資源経済学の研究室やオオサンショウウオ生態調査、ドローン実習といった様々な分野研究室の教員・学生92人、延べ滞在宿泊数208泊と確実に関係人口のさらに具体化した活動人口及び滞在人口の拡大への手ごたえをつかむことができた1年となった。
- ・この活動人口及び滞在人口、さらに移住・定住への流れに向けたモデルケースとして、昨年度タイガー（株）の中国営業所の開所、令和4年度は美郷バレーきゃらバンの展開による獣害対策等に関する地域協働活動や高校生探求学習の受入、社員研修施設のための町内の空き家の購入、社員2名的美郷町への転入という好事例が実現できた。
- ・神奈川県大磯町の賑わい創出施設「OISOコネクト」に美郷町コーナーが開設され、そばや山くじら製品に加えて新たに町内8品目の取引が決定し、物販拡大につなげていくことができた。あわせて、農産加工品の生産者への意欲向上につなげていく機会にもなった。
- ・美郷バレー協定団体と地域との連携においては、邑智小学校5年の「山くじら学習」（5回開催）や邑智中学校1年の「総合的な学習」、集落営農組合への獣害対策指導、JA島根おおちと共同企画した集落営農組織連絡協議会主催の展示・講演会の開催（邑南町田所公民館）、麻布大学 島津教授による歯周病についての町民講座（健康教室）の開催など新たな町民とのつながりを構築した。
- ・上記の美郷バレーの取り組みの数々は、NHKスペシャル『獣害転じて福となす～雅ねえと中国山地の物語』をはじめとした全国放送やマスコミで美郷町出身者はじめ全国民に知ってもらえ得る大きなPRにつながった。美郷町では一昨年の地方創生担当大臣に次ぐ、総務大臣の初の視察も実現し、町民の暮らしの評価や地域の評価、郷土への愛着と誇りの醸成を図ることができた。sd

### ●バリ島との交流

- ・R4年度中にバリ島から5人の技能実習生が来町し、各受入れ事業者にて順調に実習を進めている。配属先の事業者からは今後も雇用（実習）継続を要望されているため、引き続き新たな研修生の受入れ準備を進めていく。
- ・昨年度に引き続き美郷町バリ文化振興アドバイザーに指導・助言を受けながら町が企画運営するガムラン演奏会を開催することができた。町が支援するガムラン楽団も活動の幅が広がり、地域イベントへの出演等、町民の認知度が高まった。これにより県外大学のゼミ生の訪問やバリ島の博物館の開館セレモニーに出演するなど関係人口の拡大を図ることができた。
- ・一昨年度に来町した国際交流員の活動も広がりを見せ、公民館や町国際友好協会主催のバリ島料理教室の講師を務めたり、後述の技能実習生の生活サポートを行うなどバリ島と町とのつながりを深める活動を活発に行っている。
- ・バリ島をテーマとしたアート展を開催した。町民所蔵の作品と、バリ島在住アーティストによる作品を展示することで、来場者がこれまでの歴史の振り返りと新しい取り組みをつなぐ展覧会となった。今年度、マス村と友好協定締結して30年の節目を迎え、様々な催しが行われる予定となっているが、前年度にこのような取り組みを行う事により同村との友好交流発展の機運を醸成することができた。

### ●石見の歴史・伝統の振興

- ・「中原芳煙」伝記マンガ作成や地元自治会の画集発刊により、住民の認知度は高まっており、学校教育の授業実施に関し、児童生徒の事前理解はこれまでとは比較にならないくらい深まっている。今後はより充実した学習プログラムが必要となる。
- ・石見銀山街道に関する課外授業の実施は、コロナ禍により実施できなかった。今年度は感染症対策については緩和されてきているので、積極的な啓発活動を行い、状況に応じた検討・実施を進めていく。

### ●先進技術を使った住民生活の向上

- ・ドローンについて、林業分野での実証を継続して行っており、また町内事業者による担い手の育成も行っているところである。ドローンの技術は日進月歩で進んでいる中で、規制緩和などの状況を鑑みながら、実装できる分野を拡げていけるよう検討していく。
- ・行政のデジタル化の推進として、常にアンテナを拡げて情報収集を行っている。アクセス解析などを行って、より効果的な発信ができるように務めている。オンライン診療は、検査等の対面必須の診療があるため、利用者は微増にとどまっているが、継続して利用していただいている状況もあり、一定の成果は上がっていると考えている。